

電子機器のノイズ対策設計技術

電子機器の開発の後半で、必ずと言っていいほど問題になる「ノイズ」。再現性に乏しく、理論も難しいことから、「対処療法」に陥りがちです。昨今では、生成AIに対策を聞いてみる方もおられますが、出てきた回答に効果があるか、を判断するには、人間の側がノイズに対する正しい理論、知識を持っている必要があります。

そこで、この講座では、数式や理論を極力使わず、「なぜそういう対策を取るのか」を基礎的なノイズの物理から学んで行きます。そして、設計段階ではノイズ問題の特性に合った設計が独力ででき、何をどう対策すれば良いかが分かる内容としました。

令和8年

10月14日 水

10:00~17:00

(受付: 9:45~)

会場: 島根県産業技術センター

プロジェクト研究室

(松江市北陵町1 テクノアークしまね)

定員: 20名 (先着順)

受講料: 無料

講座内容

1. ノイズの基礎とEMC

- 1.1 ノイズとは何か
- 1.2 ノイズの物理
- 1.3 ノイズの計測・評価

2. ノイズ対策の基礎と実践

- 2.1 起こってしまった問題の解決
- 2.2 ノイズの3要素と対策の考え方
- 2.3 設計時の対策技術
- 2.4 設計後の対策技術

講師

倉西 英明 氏 (倉西技術士事務所 所長)

1990年富士写真フイルム(現富士フイルム)(株)入社、マイクロフィルム機器や印刷機器のアナログ回路設計、医療画像診断機器のEMC設計・対策などに従事。2016年に現在の技術士事務所を開設、EMC設計・対策支援・アナログ回路・基板設計コンサルティング、各種講習会講師 等でご活躍されています。技術士(電気電子部門)、iNARTE EMC Engineer、iNARTE/KEC Senior Design Engineer、第一級陸上無線技術士、電気通信主任技術者(伝送交換、線路)など多数の資格を保有しておられます。http://pe.gxk.jp/

対象者: 電気製品、医療機器、情報機器を開発、設計されており、様々なノイズ対応を基礎から学びたい方
製品の設計段階からノイズ・EMC試験を考慮したいが、方法が分からない方
生成AIを問題解決に使いたい、AIの出力を判断する力を付けたい方

習得知識/スキル: 物理現象としてのノイズの捉え方と、設計段階からのノイズ設計の考え方
基板・ケーブル・筐体等、構成部分ごとのノイズ対策手法
起こっている問題とそれを防ぐ「理由」を明確にした、ノイズ対策手法

受講条件: 島根県内に事業所を有する企業等であること

申込締切: 令和8年9月30日(水)17:00

申込方法: HPからお申込みください。 <https://www.joho-shimane.or.jp/purpose/human/11727>



◆本講座は雇用調整助成金の対象となる場合がございます。詳細は最寄りのハローワーク等にご確認ください。

※本講座受講にあたり開示いただいた個人情報、講座実施に係る運用・管理及び受講後のアンケートや当財団からのアンケート調査や事業紹介など当財団の活動の範囲以外で使用することはありません。

【お問合せ先】

■申込み等に関すること

主催: 公益財団法人しまね産業振興財団
〒690-0816 島根県松江市北陵町1番地
TEL: 0852-60-5117 FAX: 0852-60-5116
創業・人材支援課 担当: 徳田・平田・堀谷

■講座の内容に関すること

協力機関: 島根県産業技術センター
TEL: 0852-60-5138(直通)
担当: 大峠・藤原

わたしたちは、がんばる県内企業を応援します。
公益財団法人
しまね産業振興財団

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる
島根*創生
SHIMANE SOUSEI